

みつき便り

125号
2月号

板橋区役所みどりと公園課の花づくりグループと
エコポリスセンターの環境観察員地域自主活動グループに
所属しているボランティア団体「見次の会」です

平成29年2月1日

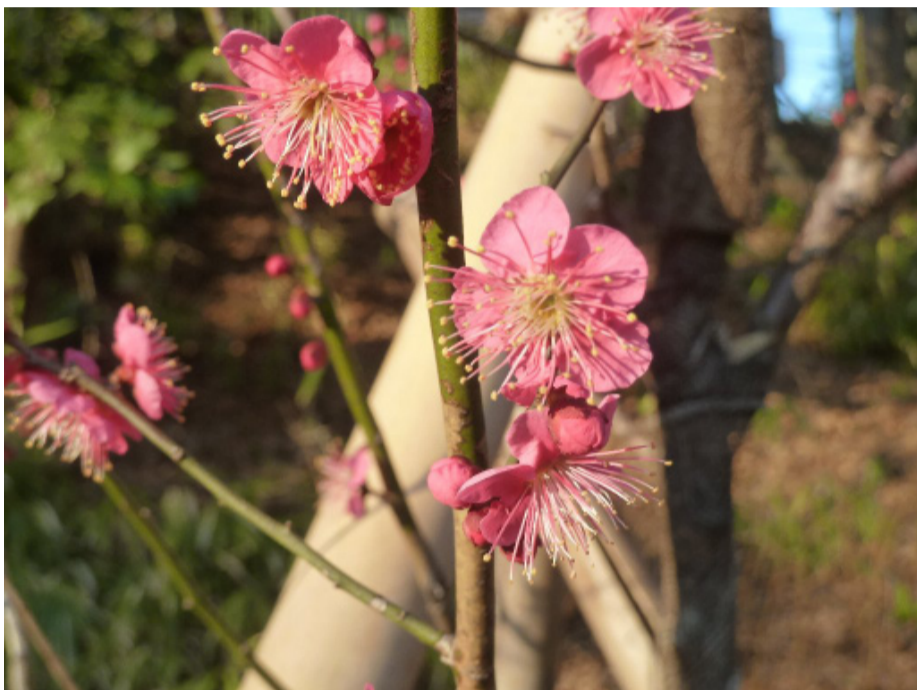
<http://itbs-ecopo.jp/projects/environsurvey/2013/000253.htm>

紅梅

二月という月は、別の名で如月（きさらぎ）といわれ、梅見月などとも称されています。季節の目印とされる二十四節気で四日が立春。暦の上では春ながら、実のところ冬がきわまりません。

しかし寒さの底から、何かが始めるときでもあります。昼の時間が冬至のころより長くなり、日差しの光に春を感じることもその一つでしょう。

さて、今回ご紹介するのは紅梅です。公園の集会所近くの斜



面と、前野中央通り寄りの花壇近くに若木が一本ずつあります。

冬のあいだ耐えていた蕾が一輪、また一輪と、わずかずつほころび始め、まなこをしつかりと眼開いて寒気の中で咲く姿には、格別の品のよさがあります。

花のたよりを乗せて吹く風は、まず梅の香りをもたらすといわれています。枝えだに凜の一字が似合う梅一輪を愛でて、お楽しみください。（兼）

梅二月 ひかりは風と

ともにあり 西島麦南

ジヨウビタキ

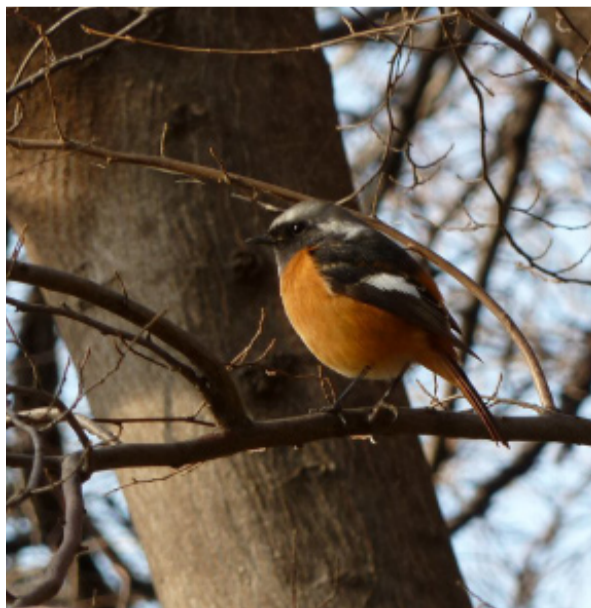
ジヨウビタキはアジア大陸で繁殖し、日本等に渡ってくる鳥です。『カツ、カツ、ヒツ、ヒツ』と鳴いて冬の訪れを教えてくれます。羽根にある目立つ白い紋の模様から『紋付け鳥』と呼ばれています。また、鳴き声が火打石を叩く音に似ているので、『火叩き』から『ひたき』になつたとも言われています。

メスはめっぽう気が強く、自分の縄張りを主張してオスと張り合い、一歩も引けをとりませ

ん。どこやらのご夫婦の力関係にも似ていませんか？

以前は毎年のように顔を見せてくれていましたが、この二、三年は姿を見かけませんでした。この冬には先にメスが十二月にやってきていました。

鳥たちの好む、木の実や小さな虫、そして安心できる場所があれば、また次の年も訪れてくれるでしょう。



オス



メス